人文学・社会科学の更なる発展のための AI for Science に関する当面の施策の方向性（概要）

令和８年８月28日　人文学・社会科学特別委員会

資料1-4
科学技術・学術審議会
学術分科会（第99回）
令和8年11月30日

検討の経緯と本論点整理の位置付け（第1章）

人文学・社会科学を取り巻く現状（第2章）

- **社会の複雑化と人社知の再評価**：社会課題の複雑化・不確実性の増大の中で、多様な価値観の理解や合意形成を支える人文学・社会科学の役割が再評価。
- **研究DX、DHの進展**：
  1990年代～・・・・デジタルアーカイブの進展、特色あるデータベースの構築
  2010年代半ば～・・デジタル技術を適用・応用し、大規模かつ大量のデータを分析するデジタル・ヒューマニティーズ（DH）の手法が国内で組織的に推進
  2024年度～・・・・人文学・社会科学のDX化に向けた研究開発推進事業による、DH コンソーシアムの構築等を開始
- **AI for Scienceの拡大**: 2020年頃からの研究のAI利活用が急進展。人文学・社会科学においても利活用が始まっているが、人文学・社会科学の研究の特質故の課題も存在。

AI for Scienceが人文学・社会科学にもたらす可能性（第3章）

1. 各分野及び海外への貢献

・整備されたデジタルアーカイブ、データインフラが我が国の知の蓄積・発信、国内外の研究者による利活用に寄与

・国内外の研究者に質の高い情報を提供する手段となり、我が国のデータの利活用が活発化（日本研究等個別分野への貢献）

2.研究プロセスの高速化、研究の質の向上

・AIによる分析が人間の処理可能範囲や速度を超え、研究プロセス全体を高速化

・それにより、研究者にとって重要な解釈・思考・理論構築に研究者自身が時間を割くことができ、研究が精緻化。質の向上にも寄与

3. 質的研究の事後的検証可能性の向上、研究の可視化

（人文学・社会科学は、テキスト分析やフィールドワークなど、環境や背景情報を踏まえて、研究者の理解と記述に基づいた解釈を行う質的研究が役割を担っている）

・AIがテキストの背景にある文脈や多様な解釈の可能性を捉えて提示することで、単なるデータ処理の効率化にとどまらない研究の質の変化をもたらす

・膨大な資料を横断分析する大規模比較、再検証によって、新たな知見を発見する可能性

・人文学・社会科学の知見がデータとして整理、可視化されることで、専門知が社会に開かれる

4.創造性の発揮、新たなネットワーク構築

・AIは、分析や翻訳、論文校正等の補助的な役割のみならず、推論や仮説を立てる、研究計画を提案するなど、研究の発想段階にまで関与

・研究の発想段階から研究者がAIと対話することで、創造力を発揮し、新たな知を創出

・AIによる大規模なデータ分析により、人間が気づかなかった事柄どうしの関係性をAIが発見し、異分野融合や共同研究の可能性を創出

※質的研究では研究者の自らの依って立つ立場や資料・研究対象との関係を意識しながら解釈を行うことが重要。AIは特定の解釈を唯一の答えとして提示する場合があり、その根拠や解釈の妥当性を研究者自身が主体性を持って判断することが重要。

直面する課題 と 今後の方向性（第4章・第5章）

	直面する課題（第4章）	今後の方向性（第5章）
環境整備・体制整備段階	・チーム型、共同研究型の研究を支える体制に対する需要増加への対応 ・研究コストの変化への対応	・各分野のデータインフラ関係機関の連携、総合知を創出できる組織ネットワークの構築
データ基盤・準備段階	・高精度、大量なデータへの需要増加 ・我が国、東アジア特有の書誌体系への対応 ・市民・地域保有資料のデジタル化の点在化 ・データベース構築に対するインセンティブの不足 ・権利問題（所有権等）への対応	・AIで活用可能な信頼できるデータの構築 ・データ規格のモデルガイドライン（人社DX事業）の普及展開 ・市民・地域の保有資料のデジタル化、活用、共有への支援 ・権利問題支援人材の養成
研究・分析の実行段階	・AIの仕組みや技術的手法に対する理解不足 ・AIに対する知識習得のための環境・支援体制の不足	・ユースケース収集、共有によるAI利活用への障壁の除去 ・人材育成プログラム（人社DX事業）によるデジタルの知見を得た研究者、大学院生の活躍推進
成果創出・価値検証段階	・学習データや内部処理のブラックボックス化、データの偏り等による誤った出力 ・欧米中心のデータによる、我が国の文化等に関する誤出力リスク ・人間の価値観によってAIを補正するための、人文学・社会科学の知の蓄積	・社会（市民、地域、産業）とのつながり促進による社会課題解決への寄与

引き続き議論すべき課題（第6章）

- **人間や社会の問い直し：** AIをめぐる進歩は、人間や社会の在り方そのものにも大きな影響を与えるもの。AIと社会の関係、AIが人間の思考や行動に与える影響、AI時代における価値観や倫理、法・政治・行政の諸制度が依拠してきた基礎概念や制度の変容についてのAIの進展を踏まえた問い直しなどは、重要な社会課題であるとともに、人文学・社会科学のほぼ全ての分野が関わる大きな研究テーマ。
- **新たな研究者像：** AIの進展により研究プロセスが根底から変わり得る中、新しい時代の人文学・社会科学の在り方や、それに携わる研究者像について議論される必要。
- **AIの原理への関与：** AIを道具として活用するのみならず、AIそのものの開発やAIの出力の方向付けにおいて人文学・社会科学が果たす役割について議論を深める必要。

補論： AIの利活用の拡大により人文学・社会科学の研究手法や研究の在り方が変化したとしても、その学問の本質が変わるものではなく、AI利活用に当たっての課題を克服することにより、新たな知見・研究が創出されることが必要。